

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援ほっぷ			
○保護者評価実施期間	令和6年10月1日 ～ 令和6年10月31日			
○保護者評価有効回答数	対象者数	2人	回答者数	2人
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日 ～ 令和6年11月30日			
○従業者評価有効回答数	対象者数	5人	回答者数	5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月20日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること。※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児一人ひとりの特性を話し合い、理解した上で支援にあたっています。	利用児一人ひとりの支援計画の支援に沿ったプランを職員に周知し、支援に努めています。	専門職(OT・PT)との連携を図り支援にあたっていきます。
2	1日の利用人数が少ないため、安全で安心できる環境(空間)をつくりやすく丁寧に関りを持っています。	少人数のため、本人の「やりたい」気持ちを大切に、活動の組み立てができています。	利用児一人ひとりの「やりたい」をさらに引き出し、個別活動の内容の充実を図っていきます。
3	どんな時でも、どうするか、何をしたいのか自分で決められるように、自己選択の練習をしています。	選ぶ楽しさを感じ、好きなことを楽しむことが出来るような空間、活動の工夫を行っています。	実践するにあたり、一人ひとりの特性や能力に合わせたカードや視覚支援の道具を用意して行いきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること。※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児件数が少なく、懇談会等の集い開催には、なかなか繋がらないこと。	利用している件数がまだまだ少なく、懇談会等の開催できる規模ではないことです。	外部に向けての情報、話題を発信、利用人数を拡大していけるように努めていきます。
2	クールダウンする部屋がないこと。	多機能の部屋はあるが、クールダウン室単独までは準備していません。	パーティション等で囲いをつくり、一人になれる空間の提供をしていきます。
3	母子通園を行っていない為、保護者は、子どもがどのように活動しているのか、あまり理解されていないこと。	利用開始前、送迎時にどのような活動をしているかは、口頭で話したりはしているが、実際の活動は見る機会がないです。	利用開始後でも、保護者の都合に合わせて自由に見学ができるように、体制を整えて周知していきます。